

## 海外の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 米 国

## 24年7月の牛肉輸出量はかなりの程度増加

### 24年8月のと畜頭数、前年同月比6.5%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年8月の牛と畜頭数は、牛群が縮小傾向にあることから、270万2000頭（前年同月比6.5%減）とかなりの程度減少した（図1）。同月の1頭当たりの平均枝肉重量は肥育期間の長期化から386キログラム（同3.5%増）とやや増加し、牛肉生産量は103万8000トン（同3.2%減）とやや減少した。

また、同月のフィードロット導入頭数は197万5000頭（同1.4%減）とわずかに減少し、出荷頭数は181万8000頭（同3.6%減）とやや減少した。この結果、9月1日時点の

フィードロット飼養頭数は1119万8000頭（同0.6%増）と前年同月をわずかに上回った。

### 24年8月の牛肉卸売価格は前年同月比2.0%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年8月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は100ポンド当たり314.29米ドル（1キログラム当たり996円：1米ドル＝143.73円<sup>注</sup>、前年同月比2.0%高）と前年同月をわずかに上回り、引き続き高水準を維持している（図2）。夏のバーベキューシーズン終了に伴う需要減から、前月比では2.2%安とわずかに下落した。同月の

図1 牛と畜頭数の推移

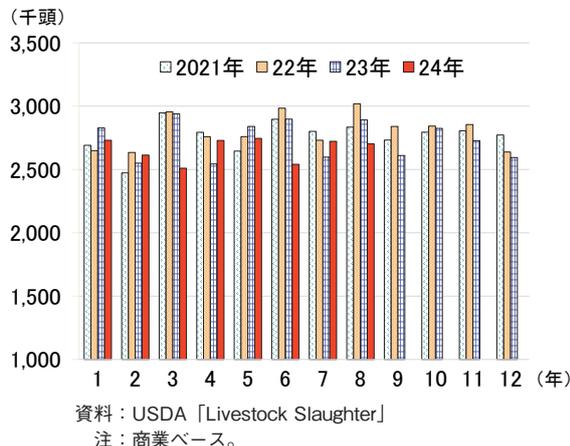
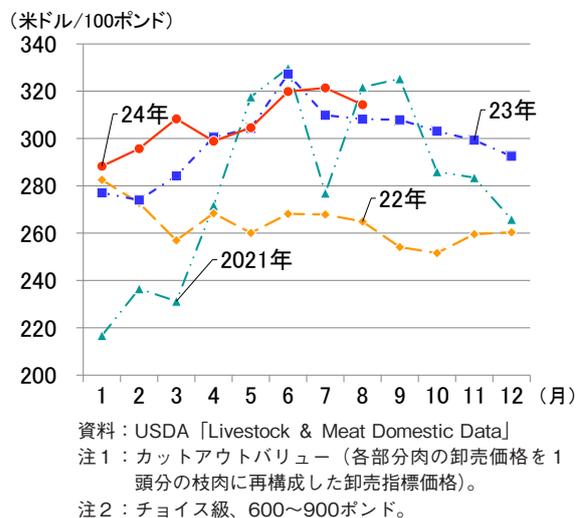


図2 牛肉卸売価格の推移



肥育牛価格は同191.22米ドル（同606円、同3.0%高）と前年同月をやや上回って推移したが、前月比では2.9%安とわずかに下落した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

## 24年7月の牛肉輸出量は前年同月比7.7%増、輸入量は同27.1%増

USDA/ERSによると、2024年7月の牛肉輸出量は11万6875トン（前年同月比7.7%増）とかなりの程度増加し、本年度初めて前年同月を上回った（表1）。日本（同

13.4%増）やメキシコ（同10.7%増）向けなど、主要輸出先からの堅調な需要が輸出増に寄与した。

一方、同月の牛肉輸入量は18万2993トン（同27.1%増）と大幅に増加した（表2）。最大の輸入先となった豪州（同47.7%増）からの増加に加え、ブラジル（同約2.9倍）も、主要輸出先である中国向けの減少から米国向けを増加させたとみられる。24年の牛肉輸入量についてUSDAは、国内の牛肉生産減や豪州、南米からの輸入増を踏まえ、前月予測から6万4000トン上方修正の196万3000トン（前年比16.2%増）と見込んでいる。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	23,609	26,769	13.4%	22.9%	179,037	0.2%
韓国	20,963	21,073	0.5%	18.0%	164,510	▲11.9%
中国	17,061	17,797	4.3%	15.2%	125,539	▲9.5%
メキシコ	12,089	13,381	10.7%	11.4%	90,470	14.1%
カナダ	12,103	11,450	▲5.4%	9.8%	71,075	▲2.6%
台湾	7,262	8,671	19.4%	7.4%	51,948	▲4.6%
香港	3,427	3,187	▲7.0%	2.7%	20,915	▲8.4%
その他	12,033	14,546	20.9%	12.4%	100,467	6.6%
合計	108,546	116,875	7.7%	100.0%	803,960	▲2.9%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	24年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
豪州	27,058	39,973	47.7%	21.8%	242,181	75.3%
カナダ	37,925	31,769	▲16.2%	17.4%	260,808	4.0%
ニュージーランド	30,759	30,492	▲0.9%	16.7%	175,209	11.8%
ブラジル	10,221	29,228	186.0% (約2.9倍)	16.0%	192,028	30.6%
メキシコ	25,283	23,934	▲5.3%	13.1%	151,657	▲17.1%
ウルグアイ	4,339	14,074	224.4% (約3.2倍)	7.7%	77,973	77.1%
その他	8,410	13,524	60.8%	7.4%	84,674	26.5%
合計	143,994	182,993	27.1%	100.0%	1,184,530	20.1%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 小林 大祐）

## 豪州

# 引き続き牛肉輸出は堅調、中東地域へのさらなる輸出拡大を視野

## 24年9月の肉牛価格、一部地域の降雨不足により軟調に推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、南オーストラリア（SA）州、ビクトリア（VIC）州など南部地域の降雨不足（図1）により、牧草肥育農家からの需要が減少したため、10月2日時点で1キログラム当たり643豪セント（648円：1豪ドル＝100.73円<sup>注</sup>）と過去5カ年平均を下回った（図2）。一方、豪州気象局（BOM）の見通しでは、10月以降は主要肉用牛生産地域のクイーンズランド（QLD）州、ニューサウスウェールズ（NSW）州を中心に平年以上の降雨が予想されている。このため、牧草の育成を見込んだ牧草

肥育農家からの需要回復により、価格が上向きに転じる可能性がある。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

図2 EYCI価格の推移

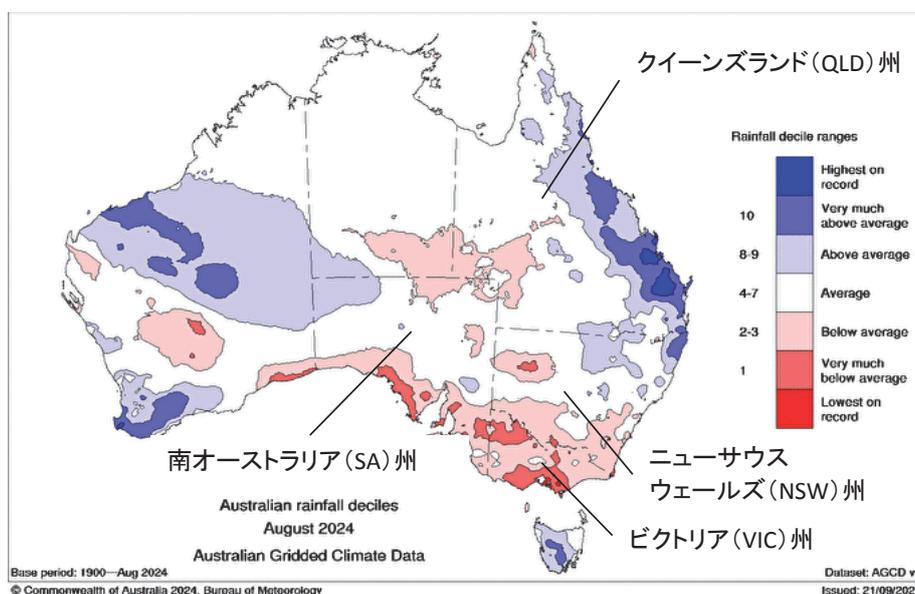


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図1 24年8月の降雨不足の状況



資料：BOMウェブサイトから引用

注：2024年8月の降水量が観測開始以降の記録の中で、どの程度の水準であったかを十分位数（各データの相対的位置を10区分に分けたもの）で示したもの。

## 成牛と畜頭数は安定して推移、ピークは2025年と予測

MLAによると、2024年9月の週間成牛と畜頭数は、同月第4週時点で13万9755頭と安定して推移している（図3）。MLAが9月に公表した業界予測によると、比較的安定している天候や海外の旺盛な牛肉需要を背景に牛群頭数は縮小傾向で推移しており、26年には牛群の再構築に向かう見通しであるため、と畜頭数および牛肉生産量は25年にピークに達するとされている。

また、現地報道によると、QLD州にある国内最大の牛肉加工施設である豪JBS社のディンモア工場は、コロナ禍以降、労働力不足のため減産で操業していたが、この1年で700名以上の従業員を追加で雇用するなど労働環境は改善傾向にあるとされている。24年7月末に現地取材した際は、稼働率が

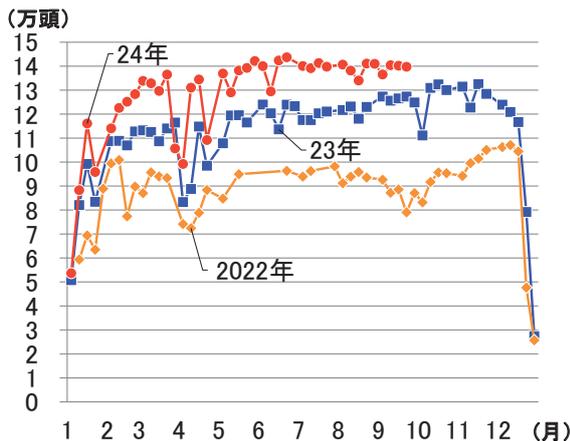
1日当たり約2800頭まで回復しており、同社は25年1月までに生産能力をフル稼働（同3400頭）に戻すことを目指していることから、今後、と畜の受入れ余力は拡大する可能性がある。

## 牛肉輸出量は堅調に推移、UAEとのFTA締結を業界は歓迎

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年8月の牛肉輸出量は12万1797トン（前年同月比19.0%増）と大幅に増加し、24年7月、15年3月に続く3番目の高水準となった（表）。輸出先別に見ると、米国、日本、韓国向けが好調を維持しており、特に米国向けは24年1～8月の累計で前年同期比69.4%増と大きな伸びを見せている。また、東南アジアも新たな成長市場として存在感を見せており、その中でもインドネシア向けは同じく4万8956トン（同6.4%増）と堅調に推移している。

豪州連邦政府は9月17日、中東地域で初となるアラブ首長国連邦（UAE）との自由貿易協定（FTA）に合意・調印したと発表した。協定の発効により、99%以上の品目の関税が撤廃され、食品分野だけでも5000万豪ドル（50億3650万円）の関税削減が見込まれている。中東地域は従来から赤身肉輸出の重要な成長市場として位置付けられており、各メディアは業界からの期待感の大きさを報じている。連邦政府は早期の批准・発効に向けて協議を進めるとしており、協定発効が豪州産牛肉の需給にどのような影響を与えるのか、その動向が注目される。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	24年	前年同期比 (増減率)
				(1～8月)	
米国	25,760	41,006	59.2%	234,976	69.4%
日本	16,868	19,676	16.6%	179,882	31.2%
韓国	17,304	17,675	2.1%	127,472	5.0%
中国	17,114	15,149	▲ 11.5%	121,192	▲ 8.8%
東南アジア	12,714	14,403	13.3%	91,111	20.0%
中東	2,773	2,731	▲ 1.5%	24,099	37.4%
E U	1,073	1,084	1.0%	8,937	58.0%
その他	8,745	10,073	15.2%	65,535	34.1%
輸出量合計	102,351	121,797	19.0%	853,204	25.8%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

## ウルグアイ

### 24年の牛肉輸出先は中国向け中心から米国向けなどへ多様化が進展

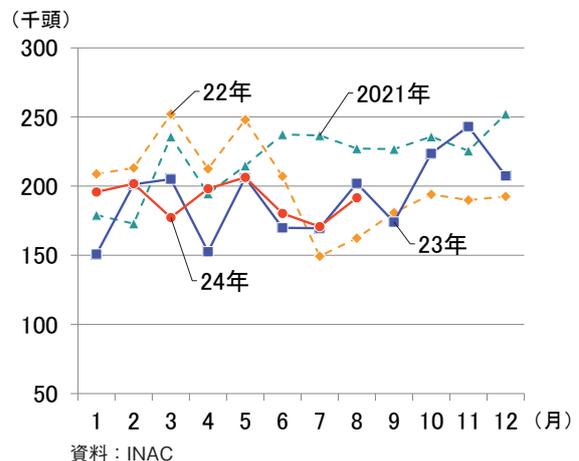
#### 24年1～8月の牛と畜頭数は前年同期比4.4%増で推移

ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2024年1～8月の牛と畜頭数は152万2000頭（前年同期比4.4%増）と前年をやや上回った（図1）。24年に入り同国の肉用牛生産は、秋期の大雨や洪水、冬期の乾燥や低温に伴う厳しい降霜といった不安定な天候の影響を受けた。このため、牧草の状況が悪化し牧草肥育牛を中心に出荷は減少したが、穀物肥育牛の出荷増がこの落ち込みを補完したとみられる。

ウルグアイでは近年、ラニーニャ現象の影響による乾燥気候が発生し、特に22年10月～翌2月は乾燥の状況が厳しく、水不足などによる肉牛生産への影響が生じた。このため、

同国農牧水産省は22年10月、農業緊急事態を宣言し、生産者に対して飼料や水不足対策などの支援措置を講じた。当初90日間（23年1月24日まで）とされていた同宣言による支援措置は、その後数回延長され、24年1月3日に終了した。

図1 月別の牛と畜頭数の推移



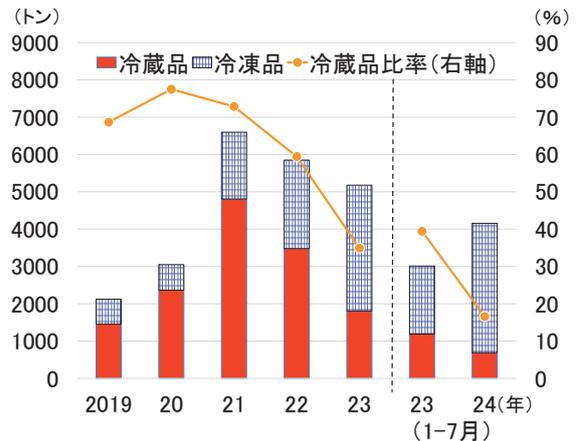
## 24年1～7月の牛肉輸出量、中国向け比率は前年同期の6割から4割に低下

ウルグアイ中央銀行によると、2024年1～7月の牛肉輸出量は、中国以外の輸出先への増加により20万2109トン（前年同期比7.0%増）とかなりの程度上回った。一方、平均輸出単価は、中国での牛肉需給の緩和や他の牛肉輸出国との競合、米ドルに対するウルグアイペソ高などにより1トン当たり5497米ドル（79万84円：1米ドル＝143.73円<sup>注</sup>、前年同期比6.9%安）とかなりの程度低下した（表）。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは8万7326トン（同25.6%減）と大幅に減少し、全体の輸出量に占める割合は43.2%と前年同期（62.2%）から19.0ポイント低下した。また、同国向け平均輸出単価は、同4063米ドル（58万3975円、同15.4%安）とかなり大きく下回った。これは、中国国内の牛肉需給の緩和や他の牛肉輸出国との競合などによるものである。一方、米国向けは5万2642トン（同92.4%増）と大幅に増加し、全体の輸出量に占める割合は26.0%と前年同期（14.5%）から11.5ポイント上昇した。

この他、24年1月にこれまでの骨なし牛肉に加え、骨付き牛肉の輸出が認められたイスラエル向けが9900トン（同約2.6倍）、ウクライナ紛争を契機に一時停滞していたロシア向けが7186トン（同約37.8倍）と大幅に増加するなど、中国向けの落ち込みを相殺した。また、日本向けは4155トン（同37.9%増）と大幅に増加した。これまで日本向けは冷蔵牛肉が中心であったが、22年には冷凍品が輸出量の4割を占め、23年には同6割以上を占めており、24年1～7月には冷凍品が同8割以上を占めている（図2）。

図2 日本向け牛肉輸出量および冷蔵品比率



資料：ウルグアイ中央銀行  
注：製品重量ベース。

表 牛肉輸出の推移

	2023年1～7月			24年1～7月			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価	輸出量	輸出額	単価
中国	117,442	564,303	4,805	87,326	354,812	4,063	▲ 25.6%	▲ 37.1%	▲ 15.4%
米国	27,359	180,485	6,597	52,642	308,724	5,865	▲ 92.4%	▲ 71.1%	▲ 11.1%
イスラエル	3,858	30,047	7,788	9,900	65,218	6,588	▲ 156.6% (約2.6倍)	▲ 117.1% (約2.2倍)	▲ 15.4%
オランダ	8,986	96,645	10,755	8,891	93,220	10,485	▲ 1.1%	▲ 3.5%	▲ 2.5%
ロシア	190	742	3,906	7,186	20,674	2,877	▲ 3682.1% (約37.8倍)	▲ 2685.6% (約27.9倍)	▲ 26.3%
イタリア	2,929	22,632	7,727	4,367	34,131	7,816	▲ 49.1%	▲ 50.8%	▲ 1.1%
日本	3,013	21,334	7,081	4,155	23,599	5,680	▲ 37.9%	▲ 10.6%	▲ 19.8%
ブラジル	3,105	28,205	9,084	3,969	41,349	10,418	▲ 27.8%	▲ 46.6%	▲ 14.7%
カナダ	4,498	21,212	4,716	3,890	18,053	4,641	▲ 13.5%	▲ 14.9%	▲ 1.6%
その他	17,505	150,252	8,583	19,783	151,311	7,649	▲ 13.0%	▲ 0.7%	▲ 10.9%
合計	188,885	1,115,857	5,908	202,109	1,111,090	5,497	▲ 7.0%	▲ 0.4%	▲ 6.9%

資料：ウルグアイ中央銀行  
注1：HSコード0201、0202の合計。  
注2：製品重量ベース。

## 去勢牛生産者出荷価格は牛肉需給が引き締まったため上昇傾向で推移

INACによると、直近（2024年9月第2週）の去勢牛生産者出荷価格は、前年同期比15.4%高の1キログラム当たり4.08米ドル（586円）となった（図3）。最近の価格推移を見ると、23年5～10月は下落傾向で推移したが、23年11月ごろから上昇傾向で推移している。これは、米国やイスラエル向けなど輸出需要が増加したことに加え、秋から冬にかけて不安定な天候の影響により、牧草肥育牛の出荷が滞り牛肉需給が引き締まったためとみられる。



（調査情報部 井田 俊二）

# 豚 肉

## カナダ

## 24年7月の豚肉輸出量はかなりの程度増加、日本向けがけん引

### 24年7月時点の豚総飼養頭数、前年比1.3%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2024年7月1日時点の豚総飼養頭数

は1400万頭（前年比1.3%増）とわずかに増加した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚が123万頭（同0.9%減）と前年をわずかに下回り、肥育豚は1276万頭（同1.5%増）とわずかに前年を上回った。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
繁殖豚	1,247	1,244	1,233	▲0.9%
肥育豚	12,663	12,571	12,762	1.5%
23kg未満	5,241	5,144	5,300	3.0%
23～53kg	2,453	2,419	2,413	▲0.3%
54～80kg	2,399	2,408	2,366	▲1.7%
81kg以上	2,570	2,601	2,684	3.2%
合計	13,910	13,815	13,995	1.3%

資料：Statistics Canada

注：各7月1日現在。

また、同年1～7月の生体豚輸出頭数（米国向け）は402万頭（前年同期比2.8%増）とわずかに増加したものの、直近の7月では54万頭（前年同月比4.9%減）とやや減少した。25年のカナダの生体豚輸出頭数について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、繁殖豚飼養頭数の減少に加えて、カナダ西部における食肉処理・加工能力の向上から678万頭（前年比1.7%減）とわずかな減少を見込んでいる。

### 24年1～8月の豚と畜頭数、前年同期比3.4%減

カナダ農務・農産食料省（AAFC）によると、2024年8月の豚と畜頭数は163万頭（前年同月比1.0%減）とわずかに減少した（図）。また、同年1～8月の累計では1382万頭（前年同期比3.4%減）とやや減少した。地域別ではカナダ東部（ケベック州など）が同5.2%減、西部（アルバータ州など）が同1.1%減となり、これは同国東部にあるオリメル社の食肉処理・加工施設の相次ぐ閉鎖が影響したとみられる。

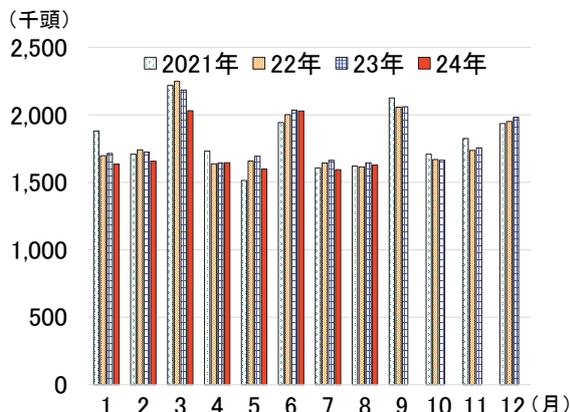
25年の豚肉生産量についてUSDA/FASは、と畜頭数（前年比0.7%増）および平均枝肉重量の増加が見込まれることで、211万トン（同1.4%増）と予測している。

### 24年1～7月の豚肉輸出量、前年同期比8.0%増

カナダ統計局によると、2024年7月の豚肉輸出量は8万8900トン（前年同月比10.3%増）、同年1～7月の累計では65万1600トン（前年同期比8.0%増）といずれもかなりの程度増加した（表2）。

同期間の豚肉輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは14万4500トン（同59.1%増）、韓国向けは4万8200トン（同73.9%増）といずれも大幅に増加した。現地情報によると、国内豚肉需要の減少に加え、カナダドルは米ドルと比較し通貨高の影響が少ないことによる米国産豚肉の代替需要などが、日本向けを中心とした輸出増につながったとされる。一方、米国向けは16万4600トン（同3.8%減）とやや減少し、中国向けは現地需要の低迷などから6万2500トン（同39.5%減）と大幅に減少した。

図 豚と畜頭数の推移



資料：AAFC「Hog Slaughtering at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	25.5	23.2	▲9.2%	26.1%	164.6	▲3.8%
日本	11.7	19.7	67.5%	22.1%	144.5	59.1%
メキシコ	12.8	14.1	10.5%	15.9%	87.6	13.7%
中国	10.6	9.2	▲13.1%	10.3%	62.5	▲39.5%
フィリピン	8.7	8.1	▲7.1%	9.1%	60.1	▲3.2%
韓国	3.0	6.0	97.4%	6.7%	48.2	73.9%
その他	8.3	8.7	5.1%	9.8%	84.1	18.3%
合計	80.6	88.9	10.3%	100.0%	651.6	8.0%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

E U

## 24年上半期の豚肉生産量はわずかに増加、豚枝肉卸売価格は続落

### 24年6月の豚肉生産量、前年同月比4.6%減

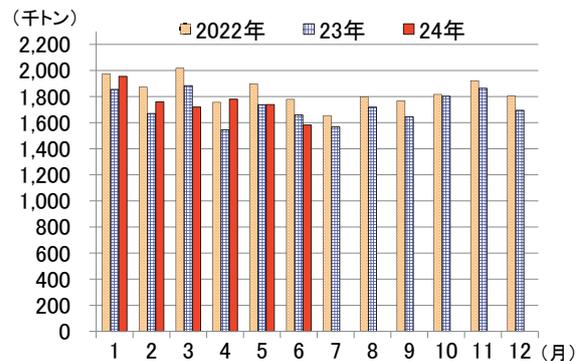
欧州委員会によると、2024年6月の豚肉生産量(EU27カ国)は、158万2000トン(前年同月比4.6%減)とやや減少した(図1)。これは、同月の豚と畜頭数が1671万頭(同5.6%減)とやや減少したことが影響した。24年上半期(1～6月)の豚肉生産量は、1053万4820トン(前年同期比1.8%増)とわずかに増加した。

同期間の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、ポーランドではアフリカ豚熱(ASF)の発生が落ち着いて23年後半から母豚の飼養頭数が増加している(表1)。その結果、24年上半期はと畜頭数が増加し、豚肉生産量は前年同期比9.3%増となった。スペインでは、23年12月の母豚飼養頭数が前年同月比3.7%増となったことで、24年上半期の子豚の生産は増加するとみられている。一方、

同国で25年3月9日に施行が予定されている肥育豚などの飼養面積に係る基準の厳格化による豚肉生産への影響が懸念されている。同国の青年農業協会(ASAJA)と農畜産生産者調整委員会(COAG)によると、同国の年間肥育豚飼養頭数は400～800万頭<sup>(注1)</sup>程度減少する可能性があるとしている。

(注1) スペインの2023年の豚と畜頭数(5309万5000頭)から減少率を推定すると7.5%～15.1%となる。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～6月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	391	358	▲ 8.5%	2,486	▲ 0.2%
ドイツ	345	329	▲ 4.5%	2,099	0.9%
フランス	178	163	▲ 8.6%	1,047	0.6%
ポーランド	130	146	11.8%	934	9.3%
オランダ	115	103	▲ 10.4%	743	1.2%
デンマーク	101	93	▲ 7.9%	673	2.5%
イタリア	98	97	▲ 1.0%	629	1.9%
その他	301	293	▲ 2.4%	1,924	2.6%
合計	1,659	1,582	▲ 4.6%	10,535	1.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：枝肉重量ベース。

## 24年8月の豚枝肉卸売価格、前年同月比12.6%安

欧州委員会によると、2024年8月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比12.6%安の100キログラム当たり207.95ユーロ（3万3465円：1ユーロ＝160.93円<sup>(注2)</sup>）となり、24年2月以来6カ月ぶりに210ユーロを下回った（図2）。これは、夏場の豚肉需要が伸び悩んだことが影響したとみられる。週別の価格動向を見ると、24年9月は横ばいで推移しており、直近9月

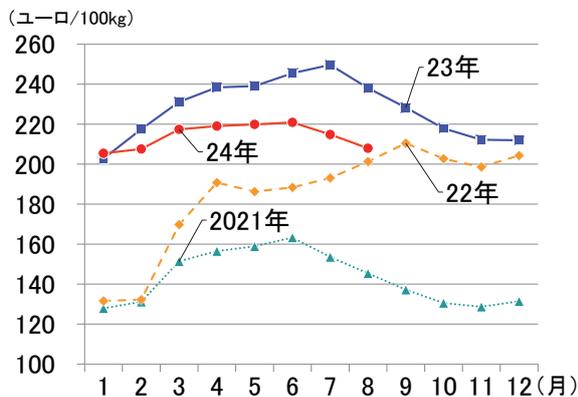
16日の週は前週から横ばいの同204.64ユーロ（3万2933円）と前年同週比9.4%安となった。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

## 24年7月の豚肉輸出量、前年同月比24.3%増

欧州委員会によると、2024年7月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万7327トン（前年同月比24.3%増）と大幅に増加した（表2）。一方、同年1～7月の豚肉輸出量は、118万9591トン（前年同期比4.9%減）とやや減少した。英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、最大の輸出先である中国向けは、ブラジルや米国などとの競争の激化や中国経済の低迷などにより同22.3%減と大幅に減少した。他方で米国向け輸出の増加要因について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、24年1月に完全施行されたカリフォルニア州法第12号による同州での母豚の飼養面積に係る基準の厳格化<sup>(注3)</sup>により、

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」  
注：EU（CLASS E）平均価格。

より高いアニマルウェルフェア基準を有する  
EUが恩恵を受けたとされている。

(注3)海外情報「母豚の飼養基準と販売を規制する州法の動向(その1：カリフォルニア州)(米国)」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003572.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003572.html)) をご参照ください。

表2 輸出先別豚肉輸出量 (EU域外向け)

(単位：トン)

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
中国	37,303	46,750	25.3%	26.4%	279,883	▲ 22.3%
英国	29,838	29,580	▲ 0.9%	16.7%	194,909	▲ 1.4%
日本	15,825	26,130	65.1%	14.7%	185,500	1.7%
韓国	12,982	13,443	3.6%	7.6%	130,450	15.9%
フィリピン	7,093	11,898	67.7%	6.7%	70,931	14.3%
米国	3,722	4,676	25.6%	2.6%	39,486	74.1%
その他	35,924	44,850	24.8%	25.3%	288,432	▲ 7.7%
合計	142,687	177,327	24.3%	100.0%	1,189,591	▲ 4.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

(調査情報部 藤岡 洋太)

## 鶏肉

### タイ

## 鶏肉調製品の輸出は好調、鶏肉卸売価格は高水準で推移

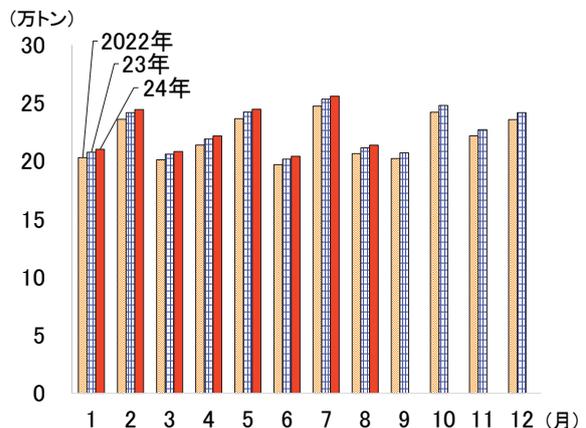
### 24年1～8月の鶏肉生産量は前年同期と同水準

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2024年1～8月の鶏肉生産量は180万1340トン（前年同期比1.1%増）とわずかに増加した（図1）。

米国農務省海外農務局（USDA/FAS）が24年9月に公表したPoultry and Products Annual（以下「報告書」という）によると、24年のタイの鶏肉生産量について前年比1%増にとどまると予測されている。この理由についてUSDA/FASは、（1）原種鶏および

種鶏の主な輸入先である米国などで高病原性鳥インフルエンザが流行し、24年上期

図1 鶏肉生産量の推移



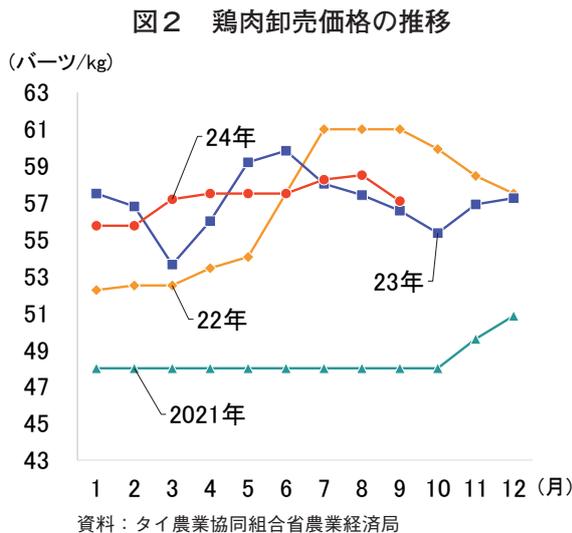
資料：タイ農業協同組合省農業経済局

(1～6月)の初生ひなの供給がひっ迫したこと(2)景気回復の遅れにより24年上期の鶏肉の国内消費量が前年同期比3%減少するなど内需が低迷していることなどを挙げている。

## 24年9月の鶏肉卸売価格は3カ月連続で前年同月を上回る

2024年9月の鶏肉卸売価格は、前年同月比0.9%高の1キログラム当たり57.09パーツ(256円：1パーツ＝4.49円<sup>(注)</sup>)とわずかに上回った(図2)。

同価格は、22年後半から23年にかけて



生産費の大部分を占める飼料費の高騰などから高値で推移していた。USDA/FASの報告書によれば、24年上期の飼料費は前年同期比で14%下落するなど、一定の落ち着きを取り戻した一方、初生ひなの供給ひっ迫を受け、24年上期の初生ひな平均価格は前年同期比で3%上昇したとされている。こうした要因に加え、鶏肉調製品の輸出が好調なことも、24年の同価格を引き続き押し上げている要因とみられる。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

## 24年1～7月の冷凍鶏肉輸出量は前年同期比4.5%減

2024年1～7月の冷凍鶏肉の輸出量は、26万1349トン(前年同期比4.5%減)とやや減少した(表1)。一方で、輸出先別に見ると、高水準となった前年同期の反動で輸入量が減少した中国と韓国を除き、主要輸出先は前年同期を上回った。日本向けは外食産業を中心に引き続き鶏肉需要が強いことから、10万1290トン(同12.6%増)とかなり大きく増加した。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	15.2	14.3	13.6	16.6	10.1	12.6%
中国	11.5	10.4	8.5	11.5	6.3	▲6.0%
マレーシア	4.1	4.7	7.2	9.1	5.3	4.7%
韓国	0.8	1.3	1.2	3.2	1.5	▲18.0%
シンガポール	0.8	0.1	0.4	0.6	0.6	70.2%
その他	3.4	4.1	4.0	6.2	2.3	▲47.4%
合計	35.7	34.9	34.9	47.2	26.1	▲4.5%

資料：[Global Trade Atlas]  
注：HSコードは020714。

## 24年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は前年同期比14.7%増

2024年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は、38万5704トン（前年同期比14.7%増）とかなり大きく上回った（表2）。日本向けは、為替の影響などがあるものの、引き続き外食や中食・総菜向けなどの引き合いが強く、17万2945トン（同7.4%増）とかなりの

程度増加した。

24年のタイの鶏肉輸出量（鶏肉、鶏肉調製品、加塩鶏肉）についてUSDA/FASの報告書では、ブラジルで24年7月にニューカッスル病が発生したことなどを受け、輸入側が調達先の多様化を進めており、タイ産の需要が増加することなどから、前年比4.7%増となると予測している。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	29.2	28.8	31.1	28.6	17.3	7.4%
英国	14.2	13.6	17.3	16.1	11.2	21.3%
オランダ	2.8	3.9	5.6	4.1	2.6	12.1%
韓国	2.4	2.1	3.1	2.9	1.7	▲ 4.7%
その他	6.1	6.7	8.1	8.0	5.8	37.7%
合計	54.6	55.0	65.2	59.6	38.6	14.7%

資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコードは160232。

（調査情報部 平山 宗幸）

# 牛乳・乳製品

## 米 国

### 8月の乳価は堅調、7月の主要乳製品の輸出量は前年同月を大きく上回る

#### 24年8月の生乳生産量は前年同月比0.1%減、乳価は同19.8%高

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年8月の乳用経産牛飼養頭数は933万頭（前年同月比0.4%減）とわずかに減少した。一方、1頭当たり乳量の増加（同0.4%増）により、同月の生乳

生産量は853万4000トン（同0.1%減）と前年並みを維持した（図1）。

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、24年8月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり23.6米ドル（1キログラム当たり75円：1米ドル＝143.73円<sup>（注1）</sup>、同19.8%高）と大幅に上昇した（図2）。このため、酪農マージン<sup>（注2）</sup>は乳価の上昇と

飼料価格の下落により、同13.72米ドル（同44円、同約2.1倍）と大幅に増加した。USDAは、酪農マージンの増加が生産者の増頭意欲の向上に作用し、25年にかけて飼養頭数は増加に転じる可能性があるとしている。

24年の生乳生産量についてUSDAは、飼養頭数が減少する中でも、約1億247万トン（前年比0.2%減）と前年並みを予測している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年9月末TTS相場。  
(注2) 酪農家のセーフティネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図1 生乳生産量の推移

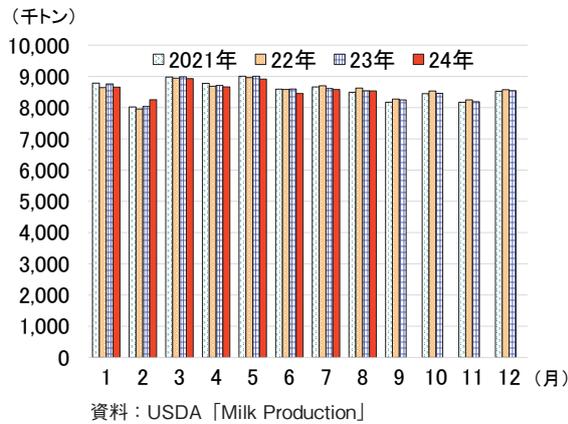
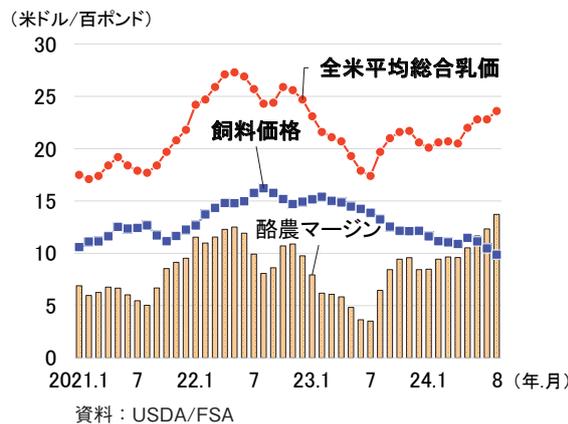


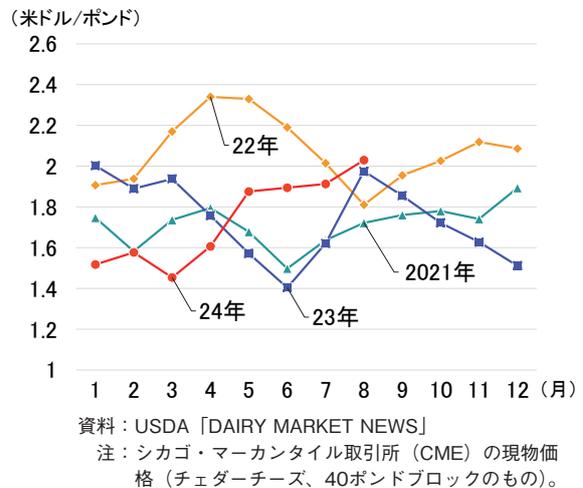
図2 酪農マージンの推移



## 24年8月のチーズおよびバター卸売価格はいずれも堅調に推移

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2024年8月のチーズ卸売価格は、国内外の堅調な需要を反映して1ポンド当たり2.03米ドル（1キログラム当たり643円、前年同月比2.8%高）とわずかに上昇し、バター卸売価格は同3.14米ドル（同996円、同17.5%高）と大幅に上昇した（図3）。8月の月末在庫量を見ると、チーズは63.5万トン（同6.4%減）とかなりの程度減少した。また、バターは14.7万トン（同10.8%増）とかなりの程度増加した。

図3 チーズの卸売価格



## 24年7月の乳製品輸出量、多くの品目で前年同月比で増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年7月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースで前年同月比8.2%増、無脂乳固形分ベースで同8.3%増といずれもかなりの程度増加した。品目別に見ると、脱脂粉乳はフィリピン向けの輸出増により7万2300

トン（同10.8%増）とかなりの程度増加し、チーズもメキシコ向けの輸出増により4万200トン（同9.6%増）とかなりの程度増加した。ホエイは中国の一部での子豚の導入が増加していることから、1万3400トン（同

15.0%増）とかなり大きく増加し、WPC（タンパク質濃縮ホエイパウダー）は健康需要の増進などにより1万3300トン（同32.1%増）と大幅に増加した。

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～7月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	65.2	72.3	10.8%	448.8	▲8.2%
チーズ	36.7	40.2	9.6%	305.1	22.6%
乳糖	35.5	33.8	▲4.9%	238.3	▲6.1%
ホエイ	11.7	13.4	15.0%	104.9	▲1.5%
WPC	10.1	13.3	32.1%	94.8	14.7%
バター	2.4	2.7	16.3%	17.5	▲8.2%

資料：USDA「Dairy Data」  
注：製品重量ベース。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

## E U

# 24年9月の主要乳製品価格、いずれも前年同期を上回る

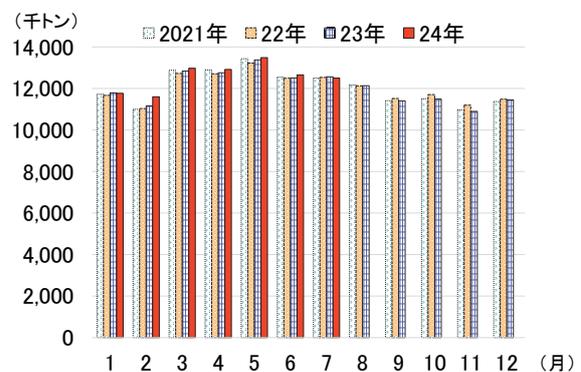
## 24年7月の生乳出荷量、前年同月比0.5%減

欧州委員会によると、2024年7月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1250万3000トン（前年同月比0.5%減）と6カ月ぶりに前年同月をわずかに下回った（図1、表1）。主要生産国別に見ると、フランス（同1.2%増）、ポーランド（同1.5%増）およびイタリア（同1.4%増）はいずれも前年同月を上回った一方で、ドイツ（同1.3%減）、オランダ（同3.1%減）、アイルランド（同3.3%減）はいずれも前年同月を下回った。

EU加盟国の多くの地域で気温が平年を上回り、生乳出荷量に影響を及ぼしている。

中でも減少幅が大きかったアイルランドは、硝酸塩に関する規制の影響に加えて高温や豪雨などの天候不順による放牧環境の悪化により、これに次ぐオランダは、同規制の影響に

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

より、いずれも生乳出荷量の減少につながった。さらに、ドイツも北西部を中心に生乳出荷量の減少がみられている。農産物の市場情報を提供するドイツのAMI社によると、欧州ではブルータンクの感染が拡大しており、

今後の生乳出荷量への影響が懸念されている。現地報道によると、ブルータンクに感染した牛の死亡はまれであるが、生乳生産量が減少するため、と畜に仕向ける生産者もいるとされる。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	24年 (1~7月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,809	2,773	▲ 1.3%	19,403	0.0%
フランス	1,917	1,941	1.2%	14,382	1.3%
オランダ	1,185	1,148	▲ 3.1%	8,192	▲ 1.6%
ポーランド	1,127	1,145	1.5%	8,089	4.2%
イタリア	1,020	1,035	1.4%	7,881	5.5%
アイルランド	1,045	1,010	▲ 3.3%	5,488	▲ 5.0%
スペイン	620	628	1.3%	4,465	2.1%
デンマーク	498	493	▲ 1.0%	3,374	▲ 0.0%
ベルギー	400	396	▲ 1.0%	2,812	0.8%
その他	1,944	1,935	▲ 0.5%	13,817	2.0%
合計	12,565	12,503	▲ 0.5%	87,905	1.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

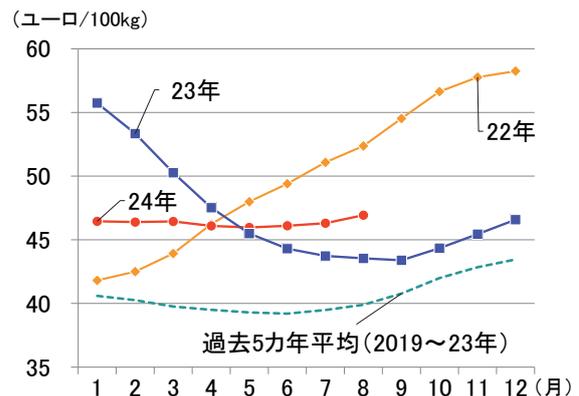
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

## 24年8月の生乳取引価格、前年同月比7.8%高

欧州委員会によると、2024年8月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.93ユーロ（1キログラム当たり75.52円：1ユーロ＝160.93円<sup>(注)</sup>、前年同月比7.8%高）と4カ月連続で前年同月を上回った（図2）。前月比では、バターを中心とする乳製品価格の上昇に連動し、同0.63ユーロ（101円、前月比1.4%高）上昇した。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

## 24年9月のバター価格、過去最高値を更新

欧州委員会によると、2024年9月15日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、

脱脂粉乳が100キログラム当たり253ユーロ（1キログラム当たり407円、前年同期比10.8%高）、全粉乳が同427ユーロ（同687円、同30.3%高）、チーズが同395ユーロ（同636円、同4.7%高）、ホエイパウダーが同90ユーロ（同145円、同25.6%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

中でもバターは、同746ユーロ（同1201円、

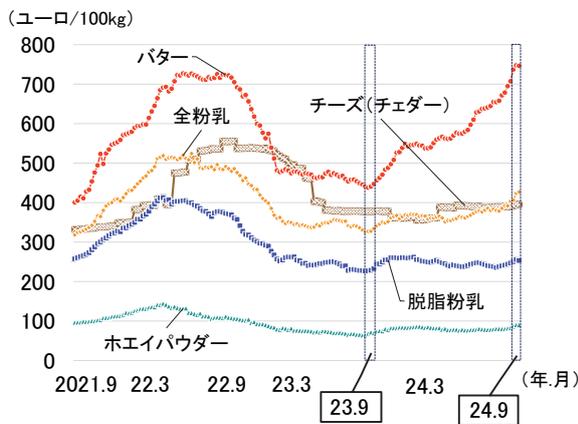
同69.4%高）と前年同期を大幅に上回り過去最高値を更新した。国際市場価格が高値で推移している中で、生乳出荷量の減少や干ばつによる乳脂肪分の減少などが、価格を押し上げている。

### 24年上半期、チーズの輸出量は前年同期並み、その他の乳製品は減少

欧州委員会によると、2024年上半期（1～6月）のEU域外向け乳製品輸出量は、チーズ（同0.1%減）が堅調な国際需要に後押しされ前年同期並みとなった（表2）。一方、チーズ向け生乳の確保により前年に比べて生産量が減少しているバター（同4.7%減）および脱脂粉乳（同8.7%減）は、いずれも輸出量は減少した。

なお、全粉乳は、ニュージーランドに比べEU産の価格競争力が低いため、輸出量（同20.4%減）は前年同期を大幅に下回った。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

表2 主な乳製品の輸出量の推移

（単位：千トン）

輸出先	バター			輸出先	脱脂粉乳		
	2023年 (1～6月)	24年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)		23年 (1～6月)	24年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
米国	24.0	25.0	4.0%	アルジェリア	91.1	98.9	8.6%
英国	21.7	23.4	8.0%	エジプト	28.4	28.0	▲1.5%
中国	8.3	9.1	10.8%	サウジアラビア	21.6	22.5	4.0%
韓国	6.0	6.6	8.7%	フィリピン	11.6	22.3	91.5%
サウジアラビア	7.4	5.6	▲23.7%	モロッコ	15.7	17.4	10.4%
アラブ首長国連邦	2.6	3.5	34.7%	インドネシア	13.3	16.8	26.7%
モロッコ	4.0	3.4	▲16.1%	中国	48.8	16.5	▲66.3%
インドネシア	2.1	3.0	43.9%	ナイジェリア	10.0	14.1	41.0%
その他	52.1	42.5	▲18.4%	その他	186.1	153.2	▲17.7%
合計	128.1	122.0	▲4.7%	合計	426.7	389.6	▲8.7%

(単位：千トン)

輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳		
	23年 (1～6月)	24年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)		23年 (1～6月)	24年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
英国	215.1	210.8	▲ 2.0%	オマーン	25.0	26.4	5.8%
米国	57.6	65.9	14.5%	クウェート	5.2	8.1	56.6%
日本	51.4	40.7	▲ 20.9%	中国	7.5	7.8	3.6%
スイス	35.7	37.8	5.9%	英国	9.3	7.6	▲ 18.6%
韓国	31.0	26.4	▲ 14.8%	サウジアラビア	3.4	4.2	22.8%
サウジアラビア	21.4	21.1	▲ 1.3%	ドミニカ共和国	7.0	3.9	▲ 44.0%
中国	16.4	17.6	7.4%	セネガル	3.5	3.1	▲ 10.0%
ウクライナ	16.3	16.6	1.7%	アルジェリア	14.0	2.8	▲ 80.3%
その他	235.7	243.3	3.2%	その他	68.5	50.2	▲ 26.7%
合計	680.5	680.1	▲ 0.1%	合計	143.5	114.3	▲ 20.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により、輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

(調査情報部 渡辺 淳一)

## N Z

# 24/25年度の生産者支払乳価は2カ月連続で引き上げへ

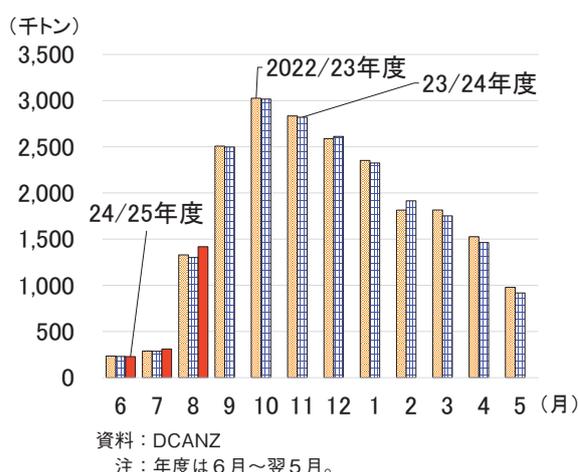
## 24年8月の生乳生産量、2カ月連続で前年を上回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年8月の生乳生産量は141万8000トン（前年同月比9.0%増）とかなりの程度増加し、8月としては20年以降で最大量となった（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、乳牛の早期分娩と冬期の牧草生育が良好となったことが生産量の増加につながったとし、生乳生産の最盛期となる9～11月に向けて順調なスタートを切ったとしている。

今後の生乳生産の見通しとして、（1）例年この時期は湿潤な気候により土壌水分が過剰となるが、今期は降雨量が平年より少なく、土壌環境が改善に向かったことで、牧草の生育に寄与したこと（2）降水量の減少により、生産者は春に向けて放牧地で十分な肥料散布

を行う機会が得られたことなどから順調な生乳生産量が見込まれている。

図1 生乳生産量の推移



## 24年8月の乳製品輸出量、チーズが増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年8月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目で前年同月を下回った

(表、図2)。最大の輸出先である中国向けが主要4品目で減少したことに起因している。一方、チーズは、主要輸出先である日本向け

が増加したことに加え、サウジアラビア向けが大幅に増加したことから、全体としてはわずかに上回った。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	16,271	15,749	▲ 3.2%
全粉乳	45,345	36,295	▲ 20.0%
バターおよびバターオイル	23,603	18,880	▲ 20.0%
チーズ	22,264	22,377	0.5%

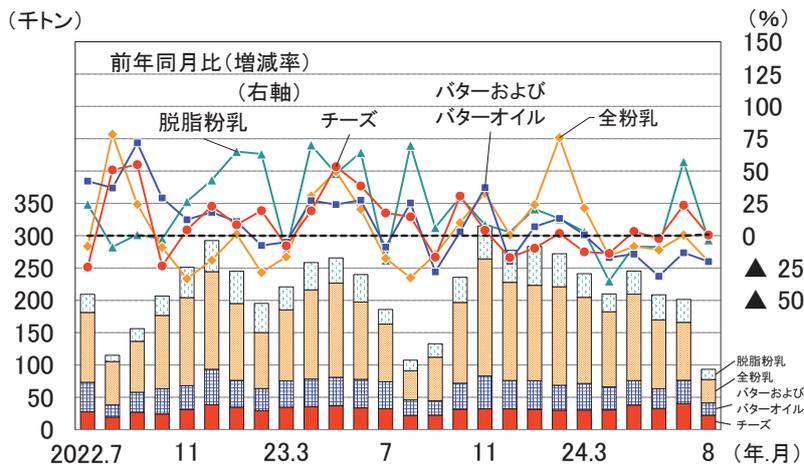
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

## 24年9月17日のGDT平均価格、主要3品目で前回開催を上回る

2024年9月17日開催のGDT<sup>(注1)</sup> 平均取引価格は、バターを除く3品目が前回開催時(同年9月3日)を上回った(図3)。特にチーズは、世界最大の生産地域である米国と欧州での需給ひっ迫などから、1トン当たり4324米ドル(62万1489円：1米ドル=143.73円<sup>(注2)</sup>、前环比2.7%高)となった。

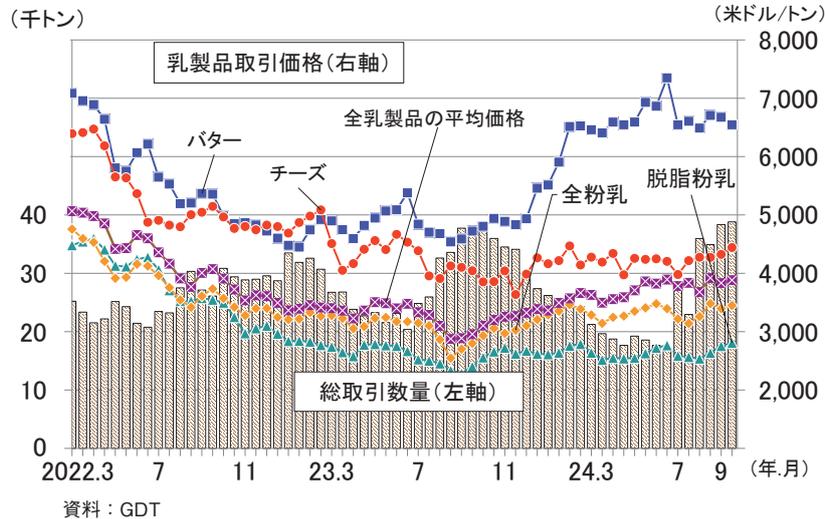
この結果、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3883米ドル(55万8104円、同1.3%高)とわずかに上昇した。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は24年9月25日、24/25年度(6月～翌5月)の生産者支払乳価について、生乳の固形分<sup>(注3)</sup> 1キログラム当たり平均0.5NZドル(46円：1NZドル=92.75円<sup>(注2)</sup>)引き上げ、同9.0NZドル(835円)にすると発表した。8月に続いての引き上げとなるが、

この理由について同社のハレル最高経営責任者は、最近のGDT価格の上昇を踏まえたものと説明している。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。  
 (注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。  
 (注3) 乳脂肪分および乳タンパク質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

## 中国

### 乳価は引き続き下落、主要乳製品輸入量はバターを除き減少

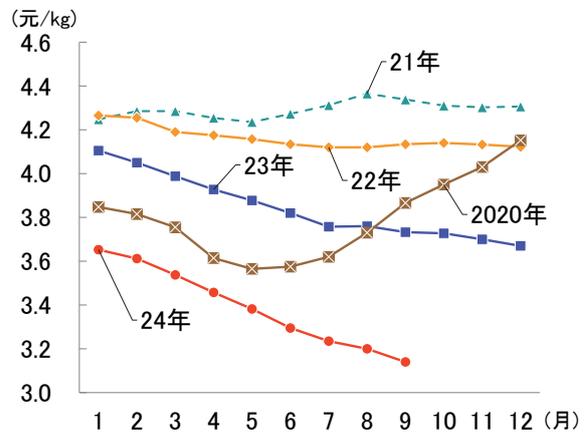
#### 24年9月の生乳価格、前年同月比14.9%安

中国農業農村部によると、2024年9月の生乳価格は1キログラム当たり3.14元(65.19円：1元=20.76円<sup>(注1)</sup>、前年同月比14.9%安)と前年同月をかなり大きく下回った(図1)。

生乳価格について中国農業農村部は、24年9月に公表した「農産物需給動向分析月報(2024年8月)」の中で、乳牛の淘汰<sup>とうた</sup>が進んだことにより生乳生産量の伸びは鈍化しているが<sup>(注2)</sup>、乳製品の国内消費が依然として低迷していることから、当面は低水準で推移すると予測している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の24年9月末TTS相場。  
 (注2) 近年、上期(1~6月)の生乳生産量の増加率は8%前後で推移していたが、今期は3.5%にとどまった。詳細については、『畜産の情報』2024年9月号「生乳生産量の伸びは低下するも、乳価下落は止まらず」([https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003378.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003378.html))をご参照ください。

図1 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区(全国の生乳生産量の8割以上を占める)の農家庭先価格の平均。

## 24年1～8月の乳製品輸入量、バターを除き前年同期比減

2024年1～8月の乳製品主要8品目の輸入量は、主に製パン向け需要が堅調なバターを除き、いずれも前年同期比で下回った(表)。

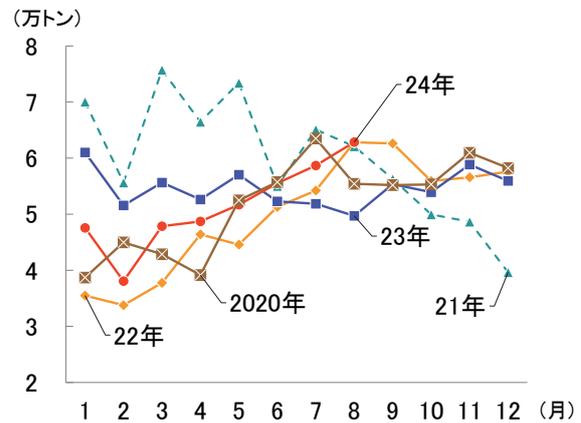
このうち、主に養豚向け飼料原料などとして使用されるホエイは、中国での繁殖雌豚頭数の減少などを受け<sup>(注3)</sup>、41万1000トン(前年同期比4.8%減)とやや減少した(図2)。しかし、乳製品輸入量(製品重量)が減少する中でも最大となる全体の約3割を占めるなど、一定数量が安定的に輸入されている。近年は輸入量の約半数を米国から輸入しており、今期も19万4000トン(全体の47.2%)を同国から輸入している。

ホエイに関して農業農村部は、24年4月に公表した「中国農業展望報告(2024-33)」<sup>(注4)</sup>の中で、中国国内での製造技術が未熟であることから主に輸入に依存しており、その輸入量は12年から23年にかけて76.3%増加したとしている。一方で、中国

政府は乳製品の輸入依存度を下げるため、乳業各社の製造技術強化を支援しており、24年には10社がチーズおよびホエイの供給能力の強化に取り組んでいるとしている。このため、今後の乳製品輸入量への影響が注目されている。

(注3)『畜産の情報』2024年10月号「24年7月の豚肉価格は前年同月比24.4%高」([https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003416.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003416.html))をご参照ください。  
(注4)海外情報「中国農業展望報告(2024-2033)」を公表(牛乳・乳製品編(中国))([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003854.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003854.html))をご参照ください。

図2 ホエイの輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコードは0404.10。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
							前年同期比 (増減率)
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	31.3	▲10.9%	▲12.1%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	16.9	▲35.8%	▲44.5%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	27.2	▲23.7%	▲24.6%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	1.0	▲27.1%	▲27.2%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	11.8	▲3.8%	▲4.6%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	6.9	5.7%	8.7%
育児用調整粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	13.9	▲20.9%	▲26.6%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	41.1	▲4.8%	▲23.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10(2021年以前)と0403.20(22年以降)、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

(調査情報部 平山 宗幸)

# 飼料穀物

## 世界

### 生産量、期末在庫はともに微減するも引き続き高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年9月12日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1857万トン（前年度比0.5%減）と前月から125万トン下方修正された。このうち、最大のトウモロコシ生産国である米国は前月に続き単収が引き上げられ、前月から99万トン上方修正の3億8573万トン（同1.0%減）とされた。これに続く中国、ブラジルはいずれも据え置かれた。一方、EUは、降雨に恵まれたフランスで増産が見込まれるものの、ルーマニアやハンガリーなど南東部での高温干ばつによる減産見込みにより、前月から150万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8540万トン（同

3.7%減）と前月から45万トン下方修正された。EUやメキシコ、アジア諸国などが上方修正されたものの、世界最大のトウモロコシ輸入国である中国などの下方修正が影響した。

消費量は、世界全体で12億1985万トン（同0.2%増）と前月から168万トン上方修正された。EUは下方修正、中国や米国は前月から据え置かれたものの、ブラジルやメキシコなどの上方修正が影響した。

輸出量は、世界全体で1億9137万トン（同4.2%減）と前月から10万トン下方修正された。カナダやタンザニアが上方修正されたものの、EUやロシアなどの下方修正が影響した。

この結果、期末在庫は3億835万トン（同0.4%減）と前月から182万トン下方修正されたものの、引き続き高水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2024年9月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(8月予測)	(9月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	34.98	34.55	47.42	46.02	33.2%
生産量	346.74	389.69	384.74	385.73	▲ 1.0%
輸入量	0.98	0.76	0.64	0.64	▲ 15.8%
消費量	305.93	320.82	321.71	321.71	0.3%
輸出量	42.22	58.17	58.42	58.42	0.4%
期末在庫	34.55	46.02	52.67	52.26	13.6%
ブラジル					
期首在庫	3.97	10.04	3.84	4.84	▲ 51.8%
生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
消費量	78.00	80.50	80.50	81.50	1.2%
輸出量	54.26	48.00	49.00	49.00	2.1%
期末在庫	10.04	4.84	2.84	2.84	▲ 41.3%
アルゼンチン					
期首在庫	4.75	1.32	1.54	1.54	16.7%
生産量	36.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
消費量	14.20	14.80	14.80	14.80	0.0%
輸出量	25.24	35.00	36.00	36.00	2.9%
期末在庫	1.32	1.54	1.74	1.74	13.0%
ウクライナ					
期首在庫	7.80	2.80	1.56	1.56	▲ 44.3%
生産量	27.00	32.50	27.20	27.20	▲ 16.3%
輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	4.90	4.25	4.05	4.05	▲ 4.7%
輸出量	27.12	29.50	24.00	24.00	▲ 18.6%
期末在庫	2.80	1.56	0.73	0.73	▲ 53.2%
EU					
期首在庫	11.51	8.03	7.48	7.48	▲ 6.8%
生産量	52.33	61.45	60.50	59.00	▲ 4.0%
輸入量	23.19	19.50	18.00	19.00	▲ 2.6%
消費量	74.80	77.10	75.60	75.30	▲ 2.3%
輸出量	4.20	4.40	3.50	3.30	▲ 25.0%
期末在庫	8.03	7.48	6.88	6.88	▲ 8.0%
中国					
期首在庫	209.14	206.04	210.86	211.36	2.6%
生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
輸入量	18.71	23.50	23.00	21.00	▲ 10.6%
消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	206.04	211.36	212.84	211.34	▲ 0.0%
世界計					
期首在庫	313.74	302.82	308.52	309.63	2.2%
生産量	1159.69	1224.33	1219.82	1218.57	▲ 0.5%
輸入量	173.39	192.53	185.85	185.40	▲ 3.7%
消費量	1170.60	1217.52	1218.17	1219.85	0.2%
輸出量	180.24	199.73	191.47	191.37	▲ 4.2%
期末在庫	302.82	309.63	310.17	308.35	▲ 0.4%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 峯岸 啓之）

# 大きな変化は見られず、大豆の期末在庫は大幅増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年9月12日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2920万トン（前年度比8.7%増）と前月から47万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億

表 主要国の大豆需給見通し（2024年9月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(8月予測)	(9月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.39	9.26	28.8%
生産量	116.22	113.34	124.90	124.81	10.1%
輸入量	0.67	0.54	0.41	0.41	▲ 24.1%
消費量	60.20	62.46	66.00	66.00	5.7%
輸出量	53.87	46.27	50.35	50.35	8.8%
期末在庫	7.19	9.26	15.25	14.97	61.7%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	27.82	27.87	▲ 24.3%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.90	0.15	0.15	▲ 83.3%
消費量	53.41	54.00	54.00	54.00	0.0%
輸出量	95.50	105.00	105.00	105.00	0.0%
期末在庫	36.82	27.87	33.87	33.92	21.7%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	24.35	24.35	43.2%
生産量	25.00	48.10	51.00	51.00	6.0%
輸入量	9.06	7.20	5.50	6.00	▲ 16.7%
消費量	30.32	35.50	40.00	40.00	12.7%
輸出量	4.19	5.20	4.50	4.50	▲ 13.5%
期末在庫	17.00	24.35	28.75	29.25	20.1%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	42.88	42.88	32.6%
生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲ 0.7%
輸入量	104.50	111.50	109.00	109.00	▲ 2.2%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	32.34	42.88	45.68	45.68	6.5%
世界計					
期首在庫	92.57	100.86	112.36	112.25	11.3%
生産量	378.70	394.75	428.73	429.20	8.7%
輸入量	167.82	177.86	177.28	177.74	▲ 0.1%
消費量	315.41	330.11	346.58	346.67	5.0%
輸出量	171.76	177.95	181.22	181.63	2.1%
期末在庫	100.86	112.25	134.30	134.58	19.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

6900万トン（同10.5%増）と前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は1億2481万トン（同10.1%増）とわずかに下方修正された。また、アルゼンチンは5100万トン（同6.0%増）、中国は2070万トン（同0.7%減）といずれも据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7774万トン（同0.1%減）と前月から46万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（同2.2%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4667万トン（同5.0%増）と前月から9万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8163万トン（同2.1%増）と前月から41万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億500万トン（前年度並み）、これに次ぐ米国は5035万トン（同8.8%増）といずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億3458万トン（同19.9%増）と前月から28万トン上方修正された。これは、アルゼンチンの輸入増による期末在庫の上方修正が反映されている。

今回の予測では、市場関係者の予想を下回る生産量や期末在庫とされたものの、引き続き期末在庫の水準が高いことで、USDAは米国の生産者販売価格を1ブッシェル当たり10.80米ドル（1552円。1キログラム当たり61円：1米ドル＝143.73円<sup>(注)</sup>、前年度比13.6%安）に据え置いている。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとの乖離<sup>かいり</sup>があり、期末在庫が高い水準にある中で、引き続きこの動向が注目される。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）

## 米 国

### 単収の上方修正で生産量も増加、輸出量も高水準を維持

USDA/WAOBは2024年9月12日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、作付面積および収穫面積が前月から据え置かれたものの、単収の上方修正から151億8600万ブッシェル（3億8574万トン<sup>(注1)</sup>、前年度比1.0%減）と前月から上方修正され、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

米国内消費量は、126億6500万ブッシェル（3億2170万トン、同0.3%増）と前月から

据え置かれ、前年度並みと見込まれている。

輸出量は、引き続き国際相場が低い水準にあり、米国の供給量が豊富であることから、23億ブッシェル（5842万トン、同0.4%増）と前月から据え置かれ、21/22年度以来の高水準とされている。

なお、今回、前年度の輸出量およびエタノール仕向け量が上方修正されたことを受けて、24/25年の期首在庫が下方修正されたが、18億1200万ブッシェル（4603万トン、同33.2%増）と前年度を大幅に上回る水準と

された。

この結果、期末在庫は20億5700万ブッシェル（5225万トン、同13.5%増）と前月から下方修正されたものの、高水準となった前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.7%（同1.6ポイント増）と前月から0.2ポイント下方修正されたが、前年度からの増加が見込まれている。

一方、生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（589円。1キログラム当たり23.2円：1米ドル＝143.73円<sup>（注2）</sup>、同11.8%安）と前月から同0.10米ドル（14円）下方修正され、前年からかなり大きく下落することが見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年9月12日米国農務省公表）

	－単位－	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			前年度比 (増減率)
				(8月予測)	(9月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.7	90.7	36.71 (百万ヘクタール)	▲4.1%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.7	82.7	33.47 (百万ヘクタール)	▲4.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	183.1	183.6	11.52 (トン/ヘクタール)	3.6%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,867	1,812	46.03 (百万トン)	33.2%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,342	15,147	15,186	385.74 (百万トン)	▲1.0%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	30	25	25	0.64 (百万トン)	▲16.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,732	17,038	17,022	432.38 (百万トン)	1.7%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,630	12,665	12,665	321.70 (百万トン)	0.3%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,775	5,825	5,825	147.96 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,855	6,840	6,840	173.74 (百万トン)	▲0.2%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,465	5,450	5,450	138.44 (百万トン)	▲0.3%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,290	2,300	2,300	58.42 (百万トン)	0.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,920	14,965	14,965	380.13 (百万トン)	0.3%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,812	2,073	2,057	52.25 (百万トン)	13.5%
期末在庫率	(%)	9.9	12.1	13.9	13.7		1.6ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.65	4.20	4.10	23.2 (円/kg)	▲11.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

(調査情報部 峯岸 啓之)

## ブラジル

### 23/24年度トウモロコシおよび大豆生産量、前年度に次ぐ過去2番目の多さを予測

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は9月12日、2023/24年度第12回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1～2）。この調査は、春植えの夏期

作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

表 2023/24年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積 (千ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (千トン)			
	2022/23	23/24			22/23	23/24			22/23	23/24		
		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率		(8月予測)	(9月予測)	前年度比増減率
穀物合計	78,546.6	79,729.8	79,819.5	1.6%	4.1	3.7	3.7	▲ 8.2%	319,811.7	298,597.8	298,411.0	▲ 6.7%
トウモロコシ	22,269.2	20,964.5	21,058.5	▲ 5.4%	5.9	5.5	5.5	▲ 7.2%	131,892.6	115,648.6	115,722.8	▲ 12.3%
第1期作	4,444.0	3,970.1	3,970.1	▲ 10.7%	6.2	5.8	5.8	▲ 6.1%	27,373.2	22,962.2	22,962.2	▲ 16.1%
第2期作	17,192.7	16,343.7	16,437.4	▲ 4.4%	6.0	5.5	5.5	▲ 7.8%	102,365.1	90,284.7	90,255.0	▲ 11.8%
第3期作	632.5	650.7	651.0	2.9%	3.4	3.7	3.8	13.0%	2,154.4	2,402.0	2,505.9	16.3%
大豆	44,080.1	46,029.8	46,029.8	4.4%	3.5	3.2	3.2	▲ 8.7%	154,609.5	147,381.8	147,382.0	▲ 4.7%

資料：CONAB

注1：2024年9月12日公表データ。

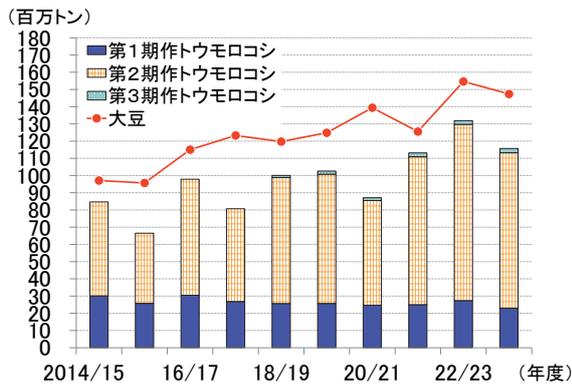
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

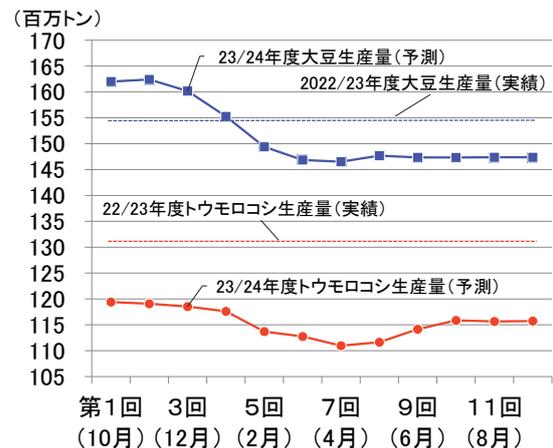


資料：CONAB

注1：2023/24年度は予測値。

注2：2024年9月12日公表データ。

図2 2023/24年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は23年10月公表、以降毎月更新。

## 23/24年度のトウモロコシ輸出量は生産量減などにより前年度比3割減の見込み

2023/24年度のトウモロコシ生産量は、前回より7万4200トン上方修正の1億1572万2800トン（前年度比12.3%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、収益性の悪化などにより生産者がトウモロコシの作付面積を減らした（同5.4%減）ことに加え、不安定な天候などで単収が低下（同7.2%減）したためである。

しかし、同年度のトウモロコシ生産量は、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度に次ぐ数量と見込まれている。

内訳を見ると、全生産量の20%を占める第1期作の生産量は、2296万2200トン（同16.1%減）と前年度を大幅に下回ると見込まれている。これは、作付面積の減少（同10.7%減）に加え、不規則な降雨により単収が低下（同6.1%減）したためである。特に北東部ピアウイ州、バイア州、南東部サンパウロ州、ミナスジェライス州で不安定な

天候の影響が大きく、南部リオグランデスル州など一部の州を除き生産量が前年を下回るとされている。

全生産量の78%を占める第2期作の生産量は、9025万5000トン（同11.8%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、南東部サンパウロ州、ミナスジェライス州、中西部マットグロッソドスル州、南部パラナ州などにおいて、降水量不足や高温により単収が低下したためである。4月後半からの降水量の減少により、多くの地域で収穫が早まったことで、収穫作業は、9月第1週時点で作付面積の99.1%で終了し、前年同期（82.2%）に比べて速いペースで進んでいる。

また、全生産量の2%を占める第3期作の生産量は、250万5900トン（同16.3%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。8月にはすべての生産地で降水量が減少し、一部の地域で単収の低下がみられた。収穫作業はバイーア州で始まっており、11月末まで続くとしている。

23/24年度のトウモロコシ需給状況を見ると、消費量は8424万3100トン（同

5.8%増）と引き続き増加が見込まれている。また、輸出量は、生産量の減少に加え、米国やアルゼンチンから国際市場への供給増により、3600万トン（同34.1%減）と前年度より大幅な減少が見込まれている。

### 23/24年度大豆生産量は悪天候により前年度をやや下回る見込み

2023/24年度の大豆生産量は、前回から大きな修正はなく1億4738万2000トン（前年度比4.7%減）と前年度をやや下回ると見込まれている。これは、作付面積が前年度より増加（同4.4%増）したものの、ほとんどの地域で悪天候に見舞われたことで、南部リオグランデスル州を除く主産地で単収が減少（同8.7%減）するためである。なお、同年度の生産量は、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度に次ぐ数量と見込まれている。

23/24年度の大豆の需給状況を見ると、輸出量は、生産量の減少を反映して、9243万4400トン（前年度比9.3%減）と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

#### 参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	7,068.4	▲ 12.7
生産量	87,096.8	113,130.4	131,892.6	115,722.8	▲ 12.3
輸入量	3,090.7	2,615.1	1,313.2	2,500.0	90.4
供給量	105,499.6	129,260.8	141,301.7	125,291.2	▲ 11.3
消費量	71,168.6	74,534.6	79,598.9	84,243.1	5.8
輸出量	20,815.7	46,630.3	54,634.4	36,000.0	▲ 34.1
需要量計	91,984.3	121,164.9	134,233.3	120,243.1	▲ 10.4
期末在庫量	13,515.3	8,095.9	7,068.4	5,048.1	▲ 28.6

資料：CONAB

注：2024年9月12日公表データ。

## 参考2 ブラジルの大豆需給動向

(単位：千トン)

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	4,220.8	9,346.7	5,962.1	3,298.2	▲ 44.7
生産量	139,385.3	125,549.8	154,609.5	147,382.0	▲ 4.7
輸入量	863.7	419.2	181.0	800.0	341.9
種子/その他	3,050.3	2,862.5	3,336.7	3,429.4	2.8
輸出量	86,109.8	78,730.1	101,862.6	92,434.4	▲ 9.3
加工量	45,963.0	47,761.0	52,255.0	52,530.2	0.5
期末在庫量	9,346.7	5,962.1	3,298.2	3,086.3	▲ 6.4

資料：CONAB

注：2024年9月12日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)

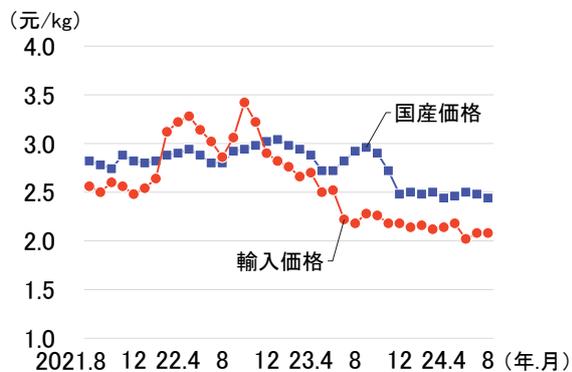
## 中国

# トウモロコシおよび大豆の価格動向

## 24年8月の国産トウモロコシ価格、新穀の供給開始でわずかに下落

中国農業農村部は9月29日、「農産物需給動向分析月報（2024年8月）」を公表した。この中で、24年8月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに下落した（図1）。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

同月のトウモロコシ需給を見ると、一部産地から新穀の供給が開始されたことで、市場への供給量は十分な状況とされている。需要面では、加工業者などは一定在庫を確保しており、必要量のみを購入している状況とされている。9月以降はさらなる新穀の供給となるが、一方では、6～7月の豪雨と台風による被害が各地で発生したため、新穀の品質低下が懸念されている。このため、一定品質以上の新穀について、流通量が限られた場合、全体の需要が緩和する中でも国産価格を下支えする可能性が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、主要養豚生産地の中国南部向け飼料原料集積地となる<sup>かんとん こうほ</sup>広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、24年8月が1キログラム当たり2.08元（43円：1元＝20.76円<sup>注</sup>、前月比同）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.44元（51円、同1.6%安）

とわずかに下落したことで、輸入と国産との価格差は前月の同0.40元（8円）から同0.36元（7円）に縮小した。

## 24年8月の国産大豆価格、供給減も需要停滞からわずかに下落

2024年8月の国産大豆価格は、前月からわずかに下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面は、産地や市中在庫の減少から引き続き備蓄大豆の取り崩しが中心とされている。需要面では、<sup>さんとう</sup>山東省と<sup>かほく</sup>河北省での大雨により野菜価格が上昇し、大豆製品の売り上げは増加しているが、市場全体は依然として閑散期とされている。9月以降は天候が涼しくなり、学校も再開されるため、大豆製品需要の伸びが予想されているが、新穀の供給が開始されるまでは備蓄大豆の取り崩しとなることで、当面の国産大豆価格は横ばいでの推移が見込まれている。

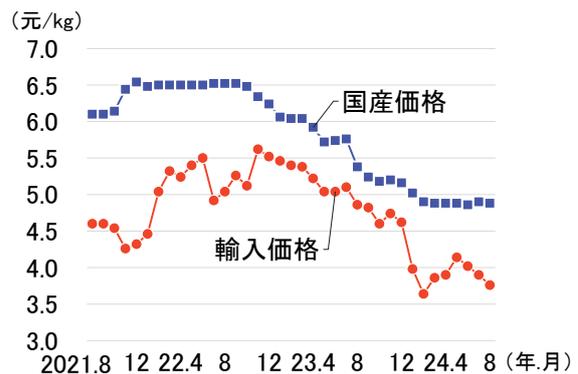
各地の価格動向を見ると、主産地である<sup>こくりゅうこう</sup>黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年8月が1キログラム当たり4.68元（97円、前年同月比8.5%安）と前年同月をかなりの程度下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.88元（101円、同9.5%安）と前年同月をかなりの程度下回った。同月の輸入大豆価格（山東省<sup>ちんたお</sup>青島港引き渡し価格、課税後）が同3.76元（78円）となったことで、輸入と国産との価格差は前月の同1.00元（21円）から同1.12元（23円）に拡大した。

なお、国産大豆および輸入大豆の価格は、今回の公表で23年8月分から修正されている。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べてわずかに低い水準にある。24年1～7月の輸入量は5833万トン（前年同期比1.5%減）、輸入額は同18.5%減の300億3400万米ドル（4兆3168億円：1米ドル＝143.73円<sup>（注）</sup>）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の74.7%）、米国（同21.7%）、カナダ（同1.7%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年9月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成  
注1：国産価格は、山東省入荷価格。  
注2：輸入価格は、山東省青島港引き渡し価格（課税後）。

（調査情報部 横田 徹）